題名：横浜労災病院で原発性アルドステロン症の精密精査（副腎静脈サンプリング）を受けられた患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 （承認番号）	原発性アルドステロン症における超選択的副腎静脈サンプリングの局在診断能、術式選択、および治療転帰に関する後ろ向きコホート研究 （2026-25）
当院の研究責任者 （所属）	横浜労災病院 内分泌・糖尿病センター長　鶴谷 悠也
他の研究機関および 各施設の研究責任者	・東京大学医学部附属病院放射線科診療部門（共同研究者：佐藤裕子） ・練馬光が丘病院 放射線科（共同研究者：牧田 幸三） （※本研究は当院主導であり、学外の先生方は匿名化されたデータの統計・画像解析を支援する共同研究者です。個人情報の学外提供はありません）
本研究の目的	原発性アルドステロン症の局在診断には、左右の副腎の中心静脈からカテーテルにて採血を行う「副腎静脈サンプリング」検査が必要です。当院では中心静脈での採血に加えて、更に副腎静脈の区域枝までカテーテルを挿入して採血する「超選択的副腎静脈サンプリング」を先駆的に実施してきました。 中心静脈からの検査結果のみを用いた場合、副腎腫瘍からのアルドステロン分泌が副腎内で希釈されてしまう、副腎からコルチゾール分泌過剰を合併している場合に結果の解釈が困難になる、などの理由により局在診断が不正確になる可能性があります。 中心静脈からの検査結果のみを用いた場合と、区域枝採血の検査結果を使用した場合で、どの程度局在診断の能力に差があるかを、本研究では解析致します。 また、当院では副腎の全摘出術のみならず、部分切除による治療を行っておりますが、超選択的副腎静脈サンプリングの実施が、術式選択にどの程度寄与したか、術後のアルドステロン症の治癒改善にどの程度寄与したか、についても解析致します。

	本研究の結果が発表されることにより、原発性アルドステロン症の診療の標準化に貢献する事ができると期待されます。
研究の方法 （利用する試料・情報）	【対象】当院にて副腎静脈サンプリングの検査を受けた全ての患者さん。 【利用する情報】年齢、性別、高血圧期間、降圧薬情報、カテーテルサンプリングデータ（各副腎静脈血のアルドステロン値、コルチゾール値）、血液・尿検査（カリウム値、レニン値等）、CT 画像所見、手術情報（術式、病理免疫染色結果、術後改善状態） 研究実施期間：2026 年 10 月(倫理委員会承認後)～ 2030 年 3 月
利用する試料・情報の該当期間	2009 年 1 月～　2026 年 9 月
試料・情報の他の研究機関への提供および提供方法	個人情報の他機関（東京大学医学部附属病院、練馬光が丘病院）への提供は行いません。当院内にて直ちに個人が特定できない『連結可能匿名化データ』に変換し、当院のサーバーまたは強固に管理された記憶媒体内でのみ解析処理を行います。
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：鶴谷　悠也　（所属：内分泌・糖尿病センター）
備考	